

故・小林平一氏採集のゴミムシ標本について

森 正人¹⁾

小林平一氏 (1923 - 2002) は蝶や鳥の著名な収集家としてよく知られており, その主要なコレクションは, 氏の没後にご遺族によって姫路科学館に納められている。小林氏は, 特にトリバネアゲハのコレクターとして世界的に有名で, 姫路科学館が刊行した収蔵資料目録 (2014, 2015) によると, その数は3属34種145亜種8,506頭に及んでおり, 量的には大英博物館を凌駕するとも言われている。また, 小林氏自身が記載された亜種のHolotypeやParatypeも多く含まれ, 質的にも大変に優れたコレクションと評価されている。トリバネアゲハ以外の昆虫コレクションの量も膨大であるが, これらは順次整理されており, 毎年その成果が目録として刊行されている。また同時にGIBF (The Global Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構) に登録され, 世界中に公表され, データが閲覧できる状況にある。

筆者はここ数年間, 姫路科学館において小林コレクションの整理業務に関わっているが, この度, 小林氏のご自宅に保管されていた古い標本を拝見する機会があり, そのなかから小林平一氏が若い頃に採集されたと思われるゴミムシ類標本を恵与された (図1)。この標本は紙製一部ガラス張の古い標本箱に納められたもので, 激しく虫害をうけてはいるが, 同定可能なものも多く, また氏の直筆によるとと思われる丁寧な採集ラベルが添付されている。ほとんどの標本は, ご自宅のある兵庫県神崎郡船津村大沢 (現在の姫路市船津町) 周辺の採集であり, 一部, 現在において記録の少ない種類が含まれていることから, これらについて記録しておきたい。なお, 採集者について, 「CLK」は小林平一氏自身の採集であり, 「平二」は平一氏の弟さんのお名前 (小林平二氏) であることがわかっているが, ここではラベル表記通りに転記した。

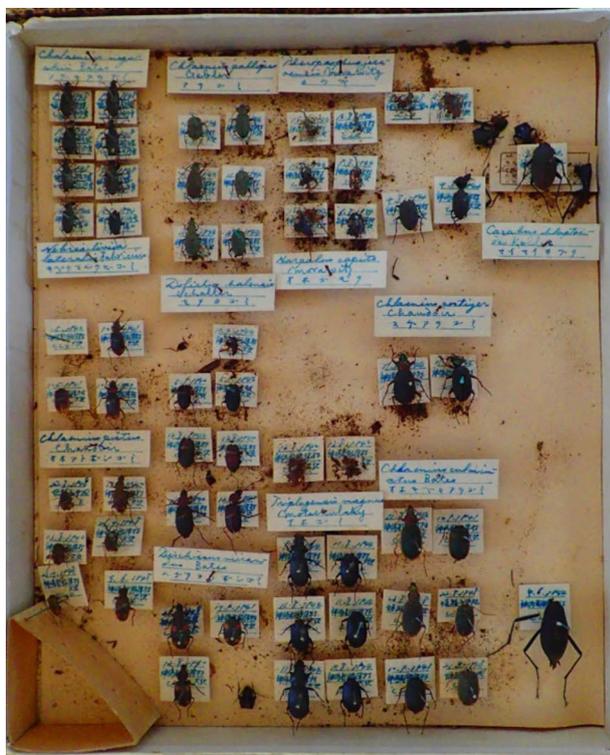


図1 小林平一氏採集のゴミムシ標本の一部。

1. セアカオサムシ *Carabus (Hemicarabus) tuberculosus* Dejean et Boisduval, 1829

2exs, 神崎郡船津村大沢, 1942年8月中, CLK (図2)

草地～草原性のオサムシで, 県内では六甲山やハチ高原などの記録がある。現在でも兵庫県中央部の砥峰高原やハチ高原などに生息しているが, 県南部における生息情報はほとんどない。

2. キベリマルクビゴミムシ *Nebria (Paranebria) livida angulata* Benniger, 1949

1ex, 神崎郡船津村大沢, 1940年5月, CLK; 2exs, 同所, 1941年5月10日, CLK; 1ex, 同所, 1947年10月10日, 平二。(図3)

本種はかつて全国的にごく普通に生息していたが, 近年急速に減少し, 今ではほとんど見られなくなった種類である。普通種であった故に記録や標本が余り残されておらず, また減少要因もよくわかっていない。生息環境も十分に把握されておらず, 河川水辺で見られることもあるが, むしろ耕作地周辺に多い印象がある。

¹⁾ Masato MORI 環境科学大阪 株式会社



図2 セアカオサムシ.



図3 キベリマルクビゴミムシ.



図4 オオヨツボシゴミムシ.



図5 オオキベリアオゴミムシ.



図6 コアトワアオゴミムシ.

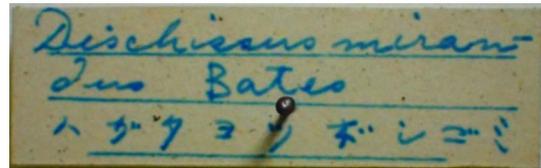


図7 「ハガタヨツボシゴミムシ」ラベル.

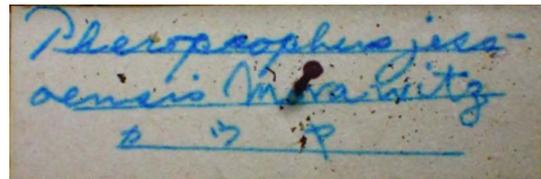


図8 「カウヤ」ラベル.

3. オオヨツボシゴミムシ *Dischissus mirandus* Bates, 1873

1ex, 神崎郡船津村大沢, 1940年8月12日, CLK; 1ex, 同所, 1941年9月17日, CLK; 1ex, 同所, 1948年8月25日, CLK. (図4)
兵庫県での記録は少なく, 森 (2017) は神戸市や芦屋市, 川西市, 氷上郡などの記録を整理し, 自身採集の姫路市内における記録を公表している. 冬季は土中や朽ち木で成虫越冬するので, 狙って採集しやすいが, 上記標本のデータは8~9月の活動期のもので, どのような状況で採集されたものか興味がある. 小林氏の標本には「ハガタヨツボシゴミ」の種名ラベルが添付されており (図7), これは小菅 (1948) でも使用されている古い呼称である. ここでは, 斑紋の形が人の歯の形に似ている事が記述されている.

4. オオキベリアオゴミムシ *Chlaenius (Epomis) nigricans* (Wiedemann, 1821)

2exs, 神崎郡船津村大沢, 1941年9月10日, CLK; 2exs, 同所, 1944年8月11日, CLK; 1ex, 同所, 1944年8月18日, CLK; 3exs, 姫路市中地, 1948年8月23日, CLK. (図5)
特殊な生態をもつ種類で, 成虫・幼虫ともカエル類

を捕食することが報告されている (平井: 2006, 三宅: 2008 など). 従って, 水田や湿地, 溜池周辺などのカエルの多い環境に生息しており, 当時の船津村周辺にはそのような良好な環境が広がっていたと思われる. なお, 記録地の「中地」とは, 姫路市内の手柄山南に位置する旨を, ご遺族の三船美枝さんから教えて頂いた. また, 当時のメモが残っていて, 「誘蛾燈に集まった虫を, 臭い思いをしてより分けた」とあり, おそらく水田に設置された害虫対策用の設備で採集されたものと思われる. 現在は住宅が建ち並ぶ市街地で, 環境は当時とは大きく変わっているようだ. 森 (2013) は県内における本種の記録を整理したが, 最近ではほとんど見られなくなっている.

5. コアトワアオゴミムシ *Chlaenius (Spilochlaenius) hamifer* (Fabricius, 1792)

1ex, 姫路市中地, 1948年8月22日, CLK. (図6)
本種の小林標本は虫害が激しく, 上翅と胸部の一部, 腹部しか残されていなかったが, 上翅の色彩や斑紋の特徴によって本種と判断できた. これも前種と同じく姫路市内の採集である. 現在でも大変に少ない種類で, 森

(2013) は加西市と上郡町を兵庫県初記録として報告している。

なお、この標本箱には「カウヤ」と書かれた種名ラベルがある(図8)。これは、今のミイデラゴミムシの古い呼び方である。八尋(2004)によれば、古く「和漢三才図会」(1712)に「行夜(こうや)」別名「へひりむし」と書かれて登場しているようで、その後、ミイデラハンメウやミイデラコウヤなどの呼称変遷を経て、「日本昆虫図鑑」(横山桐郎, 1932)で初めて現在のミイデラゴミムシが新称されたとしている。

先人の残した古い標本は、今では見られなくなった貴重な実物を見られると同時に、その頃に使われていた古い呼称に直接触れることの出来る貴重な出会いもあった。

このような貴重な機会を与えて頂き、こころよく公表のご了解を頂いたご遺族の三船美枝さん、小林義一さん、及び標本の存在を教えて頂いた熊代直生さんに厚くお礼申し上げます。

参考文献

- 森正人, 2017. 兵庫県のヨツボシゴミムシ亜科. きべりはむし, 40(1):31-33.
- 森正人, 2013. 兵庫県のアオゴミムシ類. きべりはむし, 35(2):16-23.
- 相樂充紀・森正人・北山健司, 2015. 姫路科学館収蔵資料目録第4号 小林平一コレクション昆虫編2 トリバネアゲハ類(2):97pp.
- 相樂充紀・森正人・北山健司, 2014. 姫路科学館収蔵資料目録第3号 小林平一コレクション昆虫編1 トリバネアゲハ類(1):89pp.
- 八尋克郎, 2004. ミイデラゴミムシの語源. 地表性甲虫談話会会報, (1):2-6.